



設置とセットアップ

Install and maintain

NetApp
February 20, 2026

目次

設置とセットアップ	1
設置とセットアップのワークフロー- FAS50	1
設置要件- FAS50	1
設置に必要な機器	1
吊り上げ時の注意事項	2
設置の準備- FAS50	2
手順1：サイトを準備する	3
手順2：箱を開封する	3
手順3：ストレージシステムを登録する	4
ハードウェアの設置- FAS50	4
ハードウェアのケーブル接続- FAS50	5
手順1：クラスタ/ HAをケーブル接続する	6
手順2：ホストネットワーク接続をケーブル接続する	8
手順3：管理ネットワークをケーブル接続する	10
手順4：シェルフをケーブル接続する	11
ストレージ・システムの電源をオンにします (FAS50)。	16
手順1：シェルフの電源をオンにしてシェルフIDを割り当てる	16
手順2：コントローラの電源をオンにする	18

設置とセットアップ

設置とセットアップのワークフロー- FAS50

FAS50ストレージ・システムを設置してセットアップするには、設置要件を確認し、設置場所を準備し、ハードウェア・コンポーネントを設置してケーブル接続し、ストレージ・システムの電源をオンにし、ONTAPクラスタをセットアップする必要があります。

1

"インストール要件を確認する"

ストレージシステムをインストールする前に、インストール要件を満たしている必要があります。

2

"設置を準備"

設置の準備として、設置場所を準備し、環境要件と電力要件を確認し、十分なラックスペースがあることを確認します。その後、機器を開梱し、内容を納品書と比較して、ハードウェアを登録してサポートを利用できます。

3

"ハードウェアを設置"

ハードウェアを設置するには、ストレージシステムとシェルフ用のレールキットを設置し、ストレージシステムとシェルフをキャビネットまたはTelcoラックに設置して固定します。

4

"ハードウェアのケーブル接続"

ハードウェアをケーブル接続するには、コントローラをネットワークに接続してからシェルフに接続します。

5

"ストレージ・システムの電源をオンにする"

ストレージシステムの電源をオンにするには、各シェルフの電源をオンにし、必要に応じて一意のシェルフIDを割り当ててから、コントローラの電源をオンにします。

6

/

ストレージシステムの電源を入れたら、 ["クラスターを設定する"](#)。

設置要件- FAS50

FAS50ストレージ・システムの要件を確認します。

設置に必要な機器

ストレージシステムを設置するには、次の機器および工具が必要です。

- ・ストレージシステムを設定するためのWebブラウザへのアクセス
- ・静電放電（ESD）ストラップ
- ・懐中電灯
- ・USB /シリアル接続を備えたラップトップまたはコンソール
- ・No.2 プラスドライバ

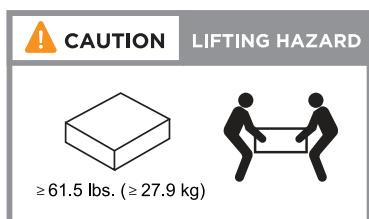
吊り上げ時の注意事項

ストレージシステムやシェルフは重い。これらのアイテムを持ち上げたり移動したりするときは、注意してください。

ストレージシステムノオモミ

ストレージシステムを移動または持ち上げるときは、必要な予防措置を講じてください。

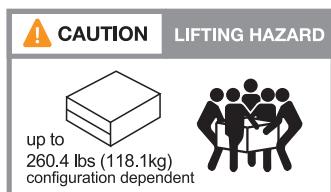
ストレージシステムの重量は最大24.4 kg (53.8ポンド) になります。ストレージ・システムを持ち上げるには、2人で作業するか、油圧リフトを使用します。



シェルフの重量

シェルフを移動または持ち上げるときは、必要な予防措置を講じてください。

DS460Cシェルフの重量は最大181.1kg (260.4ポンド) です。シェルフを持ち上げるには、最大5人で作業するか、油圧リフトを使用します。シェルフの重量がバランスを崩さないように、すべてのコンポーネント（前面と背面の両方）をシェルフに保管してください。



関連情報

- ・"安全に関する情報と規制に関する通知"

次の手順

ストレージシステムのインストール要件と考慮事項を確認したら、を実行し "[設置の準備](#)" ます。

設置の準備- FAS50

FAS50ストレージ・システムを設置する準備をします。設置場所を準備し、開梱して内

容を納品書と比較し、ストレージ・システムを登録してサポートを受けられます。

ステップ1：サイトを準備する

ストレージシステムを設置するには、設置場所および使用するキャビネットまたはラックが構成の仕様を満たしていることを確認してください。

手順

1. を使用して "NetApp Hardware Universe の略"、サイトがストレージシステムの環境要件と電力要件を満たしていることを確認します。
2. ストレージシステム、シェルフ、およびスイッチ用のキャビネットまたはラックスペースが十分にあることを確認します。
3. 必要なネットワークスイッチを取り付けます。

インストール手順および互換性情報については、を参照してください "スイッチのドキュメント" "NetApp Hardware Universe の略"。

手順2：箱を開封する

ストレージシステムに使用するキャビネットやラックが必要な仕様を満たしていることを確認したら、すべての箱を開封し、内容を納品書の項目と比較します。

手順

1. すべての箱を慎重に開き、内容を整理された方法でレイアウトします。
2. 開梱した内容を、納品書のリストと比較します。



梱包箱の側面にあるQRコードをスキャンすると、梱包リストを取得できます。

次の項目は、ボックスに表示される内容の一部です。

箱の中のすべてが納品書のリストと一致していることを確認してください。不一致がある場合は、それらをメモして、さらに対処してください。

* ハードウェア *	ケーブル
<ul style="list-style-type: none">・ベゼル・ストレージシステム・取扱説明書付きのレールキット（オプション）・ストレージシェルフ（追加のストレージを注文した場合）	<ul style="list-style-type: none">・管理イーサネットケーブル（RJ-45ケーブル）・ネットワークケーブル・電源コード・ストレージケーブル（追加のストレージを注文した場合）・USB-Cシリアルコンソールケーブル

手順3：ストレージシステムを登録する

設置場所がストレージシステムの仕様要件を満たしていることを確認し、発注したパーツがすべて揃っていることを確認したら、ストレージシステムを登録する必要があります。

手順

- インストールする各コントローラのシステム シリアル番号 (SSN) を見つけます。

シリアル番号は次の場所にあります。

◦ 納品書に

◦ 確認メール

SSN: XXYYYYYYYYYYYY



- に進みます "ネットアップサポートサイト"。
- ストレージシステムの登録が必要かどうかを判断します。

ユーザのタイプとアクセス方法	実行する手順
NetAppの既存のお客様	<ol style="list-style-type: none">ユーザ名とパスワードを使用してサインインします。[システム]>*[マイシステム]*を選択します。新しいシリアル番号が表示されていることを確認します。そうでない場合は、NetAppの新規のお客様向けの手順に従います。
NetAppの新規のお客様	<ol style="list-style-type: none">[今すぐ登録]をクリックしてアカウントを作成します。Systems > Register Systems *を選択します。ストレージシステムのシリアル番号と要求された詳細を入力します。 <p>登録が承認されると、必要なソフトウェアをダウンロードできます。承認プロセスには最大 24 時間かかる場合があります。</p>

次の手順

ストレージシステムの設置の準備が完了したら、次"ストレージシステム用のハードウェアの設置"の作業を行います。

ハードウェアの設置- FAS50

FAS50ストレージ・システムの設置準備が完了したら、ストレージ・システムのハードウェアを設置します。まず、レールキットを取り付けます。次に、ストレージシステムをキャビネットまたはTelcoラックに設置して固定します。

ストレージ・システムがキャビネットに収納されていた場合は、この手順を省略してください。



設置およびメンテナンス手順中は、検証済みの接地点に接続された接地リストラップを常に着用してください。適切なESD予防措置に従わないと、コントローラーノード、ストレージシェルフ、およびネットワークスイッチに永久的な損傷が発生する可能性があります。

作業を開始する前に

- レールキットに手順書が同梱されていることを確認します。
- ストレージシステムとシェルフの重量に関する安全上の問題に注意してください。
- ストレージ・システム内の通気は'ベゼルまたはエンド・キャップが取り付けられている前面から入り'ポートが取り付けられている背面から排出されます

手順

- キットに付属の手順書に従って、ストレージシステムとシェルフのレールキットを必要に応じて設置します。
- キャビネットまたはTelcoラックにストレージシステムを設置して固定します。
 - キャビネットまたはTelcoラックの中央にあるレールにストレージシステムを配置し、ストレージシステムを下から支えて所定の位置にスライドさせます。
 - キャビネットまたはTelcoラックのガイドピンがシャーシガイドスロットに固定されていることを確認します。
 - 付属の取り付けネジを使用して、ストレージシステムをキャビネットまたはTelcoラックに固定します。
- ベゼルをストレージシステムの前面に取り付けます。
- 必要に応じてシェルフを設置して固定します。
 - シェルフの背面をレールに合わせ、シェルフを下から支えてキャビネットまたはTelcoラックに挿入します。

複数のシェルフを設置する場合は、最初のシェルフをコントローラの真上に配置します。2台目のシェルフをコントローラの真下に置きます。シェルフを追加する場合は、このパターンを繰り返します。

- 付属の取り付けネジを使用して、シェルフをキャビネットまたはTelcoラックに固定します。

次の手順

ストレージシステムのハードウェアの設置が完了したら、次の作業"ハードウェアのケーブル接続"を行います。

ハードウェアのケーブル接続- FAS50

FAS50ストレージシステムハードウェアを設置したら、コントローラをネットワークおよびシェルフにケーブル接続します。

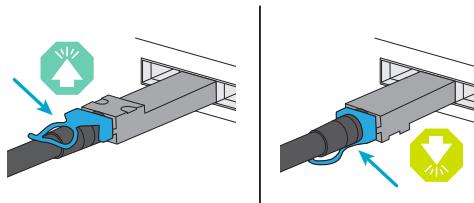
作業を開始する前に

ストレージシステムをネットワークスイッチに接続する方法については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

このタスクについて

- ケーブル配線図には、ポートにコネクタを挿入する際のケーブルコネクタブルタブの正しい方向（上または下）を示す矢印アイコンがあります。

コネクタを挿入すると、カチッという音がしてコネクタが所定の位置に収まるはずです。カチッと音がない場合は、コネクタを取り外し、裏返してもう一度試してください。



- 光スイッチにケーブル接続する場合は、光トランシーバをコントローラポートに挿入してから、スイッチポートにケーブル接続します。

手順1：クラスタ/HAをケーブル接続する

ONTAPクラスタ接続を作成スイッチレスクラスタの場合は、コントローラを相互に接続します。スイッチクラスタの場合は、コントローラをクラスタネットワークスイッチに接続します。

クラスタ/HAのケーブル接続例は、一般的な構成を示しています。



ここに構成が表示されない場合は、にアクセスし "NetApp Hardware Universe の略" でストレージシステムのケーブル接続に関する包括的な構成とスロット優先度情報を確認してください。

スイッチレスクラスタのケーブル接続

FAS50 : 2ポート40 / 100GbE I/Oモジュール×1

手順

1. クラスタ/ HAインターフェクト接続をケーブル接続します。



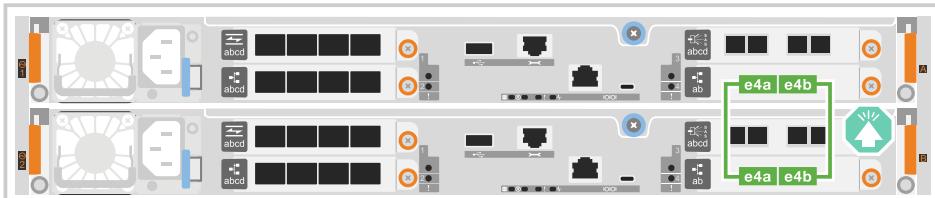
クラスタインターフェクトトラフィックとHAトラフィックは、同じ物理ポートを共有します（スロット4のI/Oモジュール上）。ポートは40 / 100GbEです。

- a. コントローラAのポートe4aをコントローラBのポートe4aにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe4bをコントローラBのポートe4bにケーブル接続します。

- 100GbEクラスタ/ HAインターフェクトケーブル*



Controller A



Controller B

スイッチクラスタのケーブル接続

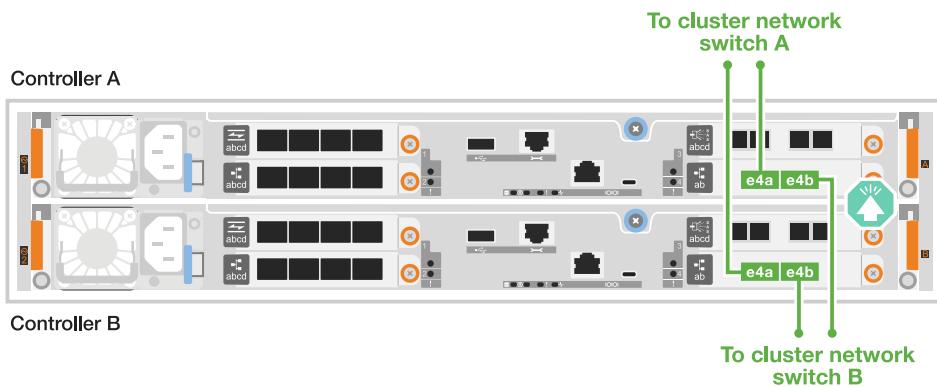
FAS50 : 2ポート40 / 100GbE I/Oモジュール×1

1. コントローラをクラスタネットワークスイッチにケーブル接続します。

i クラスタインターフェイスクスイッチとHAインターフェイスクスイッチは、同じ物理ポートを共有します（スロット4のI/Oモジュール上）。ポートは40 / 100GbEです。

- a. コントローラAのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- b. コントローラAのポートe4bをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。
- c. コントローラBのポートe4aをクラスタネットワークスイッチAにケーブル接続します。
- d. コントローラBのポートe4bをクラスタネットワークスイッチBにケーブル接続します。

▪ 40 / 100GbEクラスタ/ HAインターフェイスクスイッチケーブル*



手順2：ホストネットワーク接続をケーブル接続する

コントローラをイーサネットまたはFCホストネットワークにケーブル接続します。

ホストネットワークのケーブル接続の例は、一般的な構成を示しています。



ここに構成が表示されない場合は、にアクセスし "NetApp Hardware Universe の略" でストレージシステムのケーブル接続に関する包括的な構成とスロット優先度情報を確認してください。

イーサネットホストのケーブル接続

FAS50 : 4ポート10 / 25GbE I/Oモジュール×1

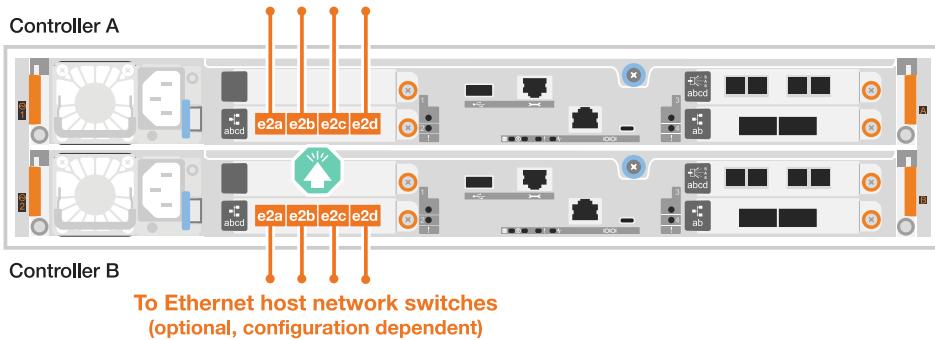
手順

- 各コントローラで、ポートe2a、e2b、e2c、e2dをイーサネットホストネットワークスイッチにケーブル接続します。

- 10/25GbEケーブル*



To Ethernet host network switches
(optional, configuration dependent)

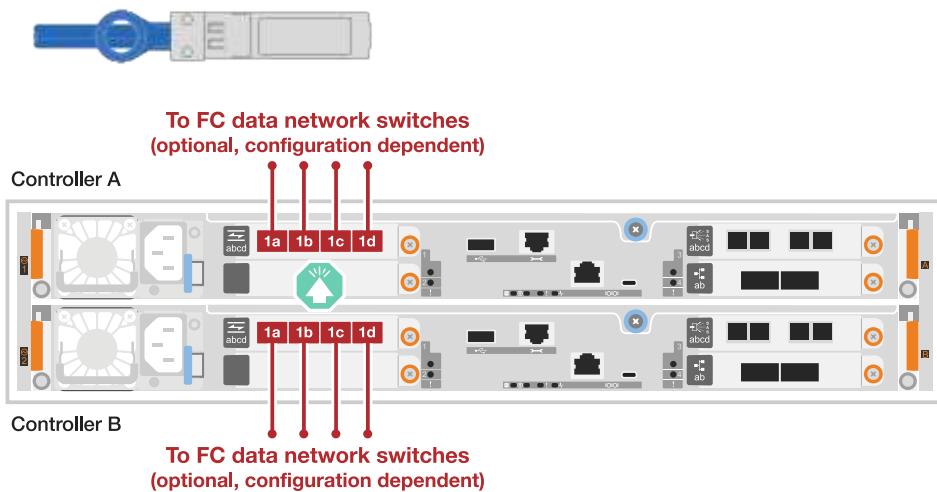


FCホストのケーブル接続

FAS50 (4ポート 64 Gb/秒 FC I/Oモジュール×1)

手順

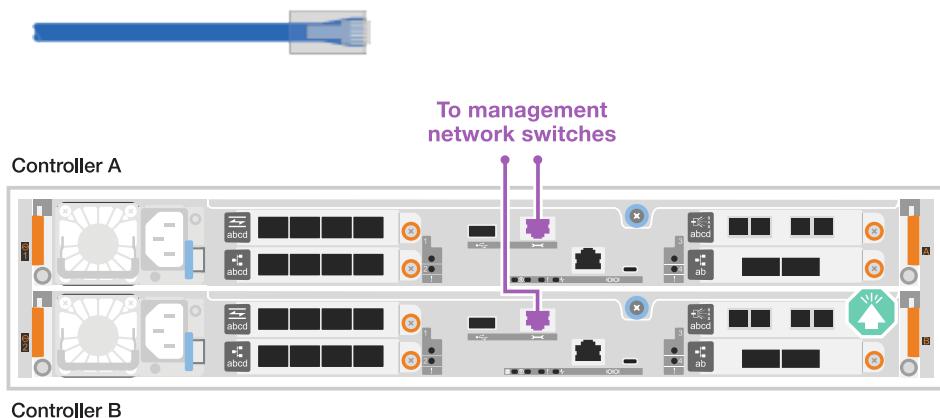
- 各コントローラで、ポート1a、1b、1c、および1dをFCホストネットワークスイッチにケーブル接続します。
 - 64 Gb/秒FCケーブル*



手順3：管理ネットワークをケーブル接続する

コントローラを管理ネットワークにケーブル接続します。

- 各コントローラの管理（レンチマーク）ポートを管理ネットワークスイッチにケーブル接続します。
 - 1000BASE-T RJ-45ケーブル*



まだ電源コードを接続しないでください。

手順4：シェルフをケーブル接続する

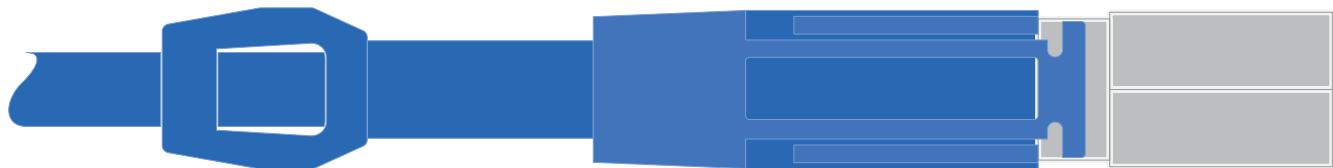
次の手順では、1台または2台のDS460Cシェルフにコントローラをケーブル接続する方法を示します。

このタスクについて

- ケーブル接続例ではDS460Cシェルフを使用していますが、追加のSASシェルフもサポートされます（を参照）["NetApp Hardware Universe の略"](#)。

サポートされている他のSASシェルフのケーブル接続も同様です。を参照して ["新しいシステムを設置する場合のシェルフの設置とケーブル接続"を参照することもできます"SASケーブル接続ルート、ワークシート、および例の概要"](#)。

- ストレージシステムでサポートされるシェルフの最大数、および光ファイバやスイッチ接続などのすべてのケーブル接続オプションについては、を参照してください["NetApp Hardware Universe の略"](#)。
- 図は、コントローラAのケーブル配線を青で示し、コントローラBのケーブル配線を黄色で示しています。
- ストレージシステムに付属のストレージケーブルを使用します。次の種類のケーブルを使用できます。
- Mini-SAS HDケーブル*

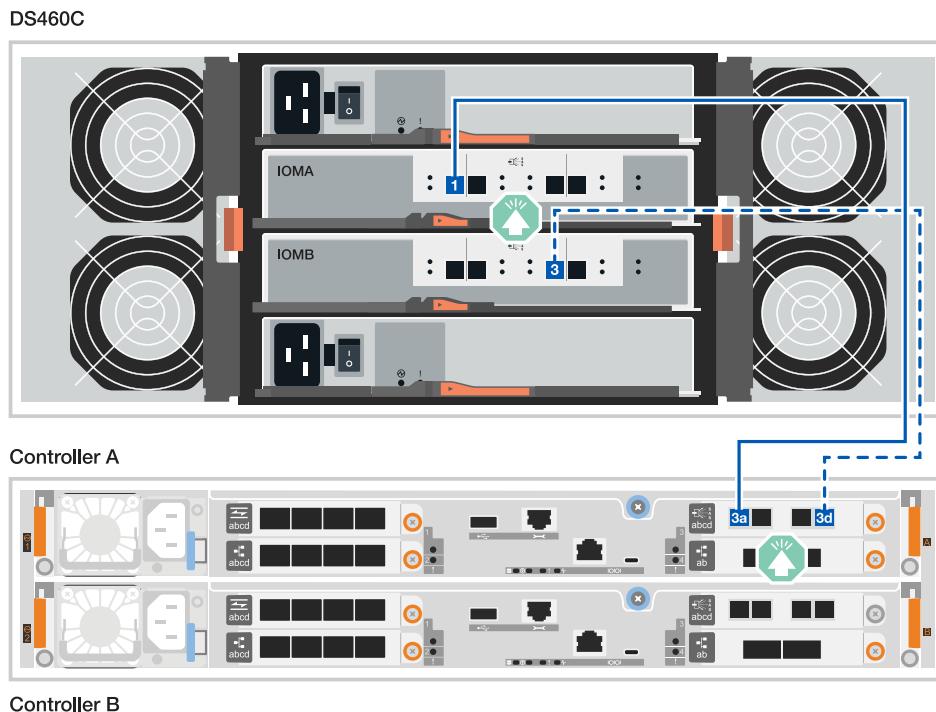


オプション1：DS460Cシェルフ1台

各コントローラをDS460Cシェルフの各IOM12モジュールにケーブル接続します。

手順

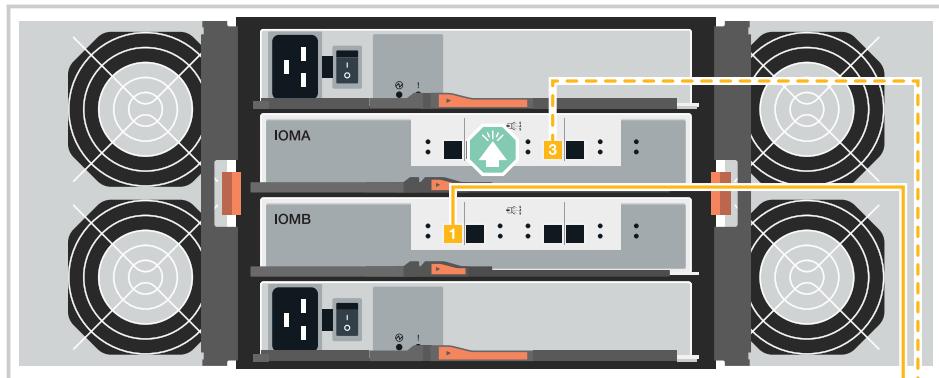
1. コントローラ A をシェルフにケーブル接続します。
 - a. コントローラAのポート3aをIOMAポート1にケーブル接続します。
 - b. コントローラAのポート3DをIOMBポート3にケーブル接続します。



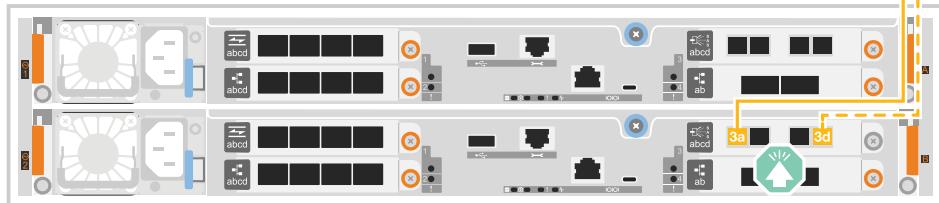
2. コントローラ B をシェルフにケーブル接続します。

- a. コントローラBのポート3aをIOMBポート1にケーブル接続します。
- b. コントローラBのポート3DをIOMAポート3にケーブル接続します。

DS460C



Controller A



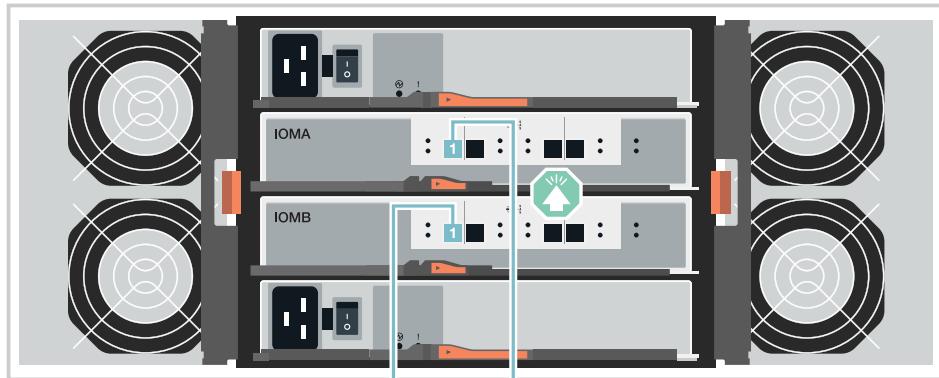
Controller B

オプション2：DS460Cシェルフ×2

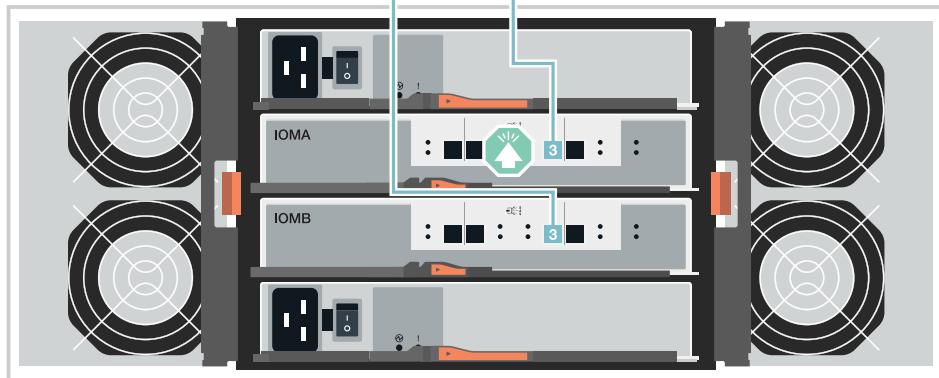
各コントローラを両方のDS460CシェルフのIOM12モジュールに接続します。

1. シェルフ/シェルフ間をケーブル接続します。
 - a. シェルフ1のIOMAポート3をシェルフ2のIOMAポート1にケーブル接続します。
 - b. シェルフ1のIOMBポート3をシェルフ2のIOMBポート1にケーブル接続します。

DS460C shelf 2



DS460C shelf 1



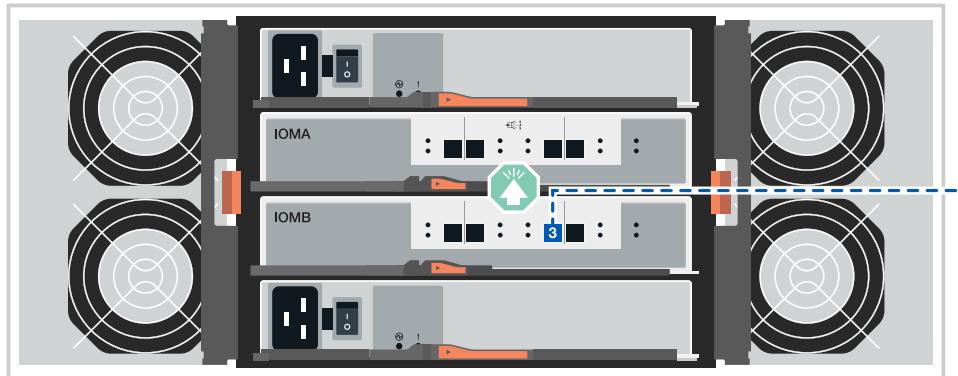
Controller A



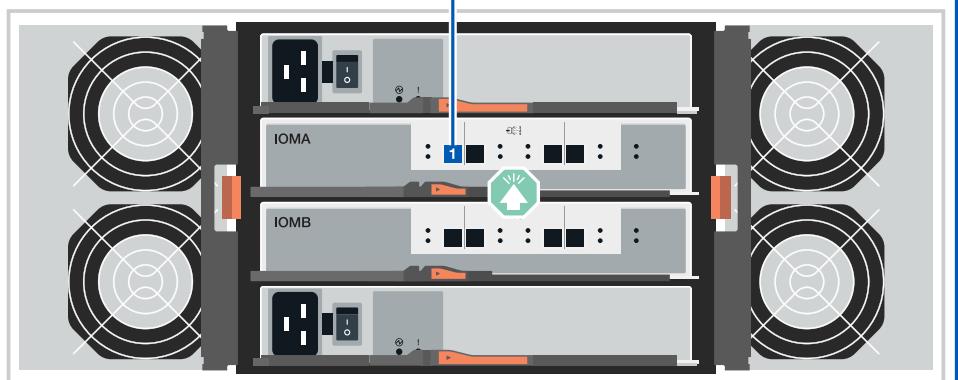
Controller B

2. コントローラ A をシェルフにケーブル接続します。
 - a. コントローラ A のポート 3a をシェルフ 1 の IOMA ポート 1 にケーブル接続します。
 - b. コントローラ A のポート 3D をシェルフ 2 の IOMB ポート 3 にケーブル接続します。

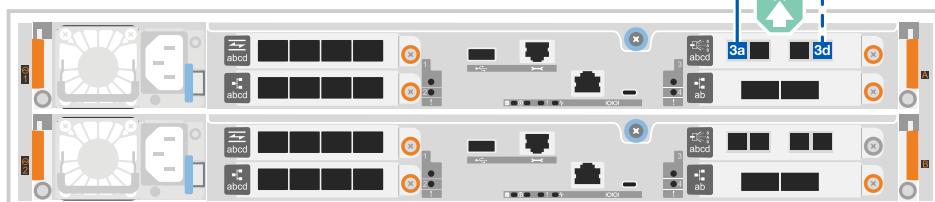
DS460C shelf 2



DS460C shelf 1



Controller A

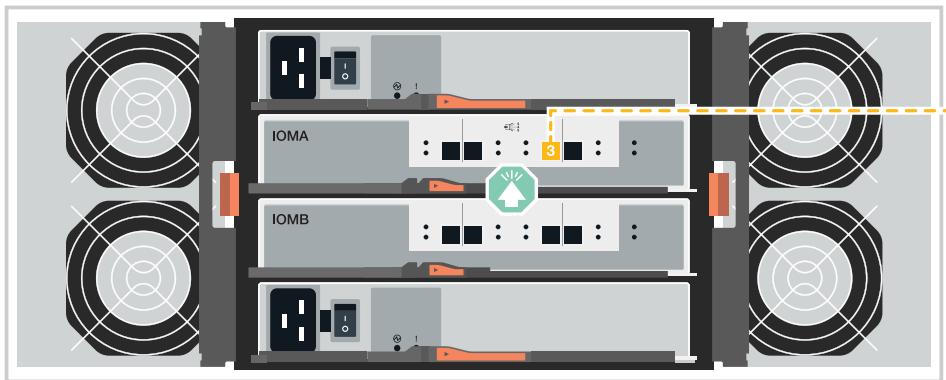


Controller B

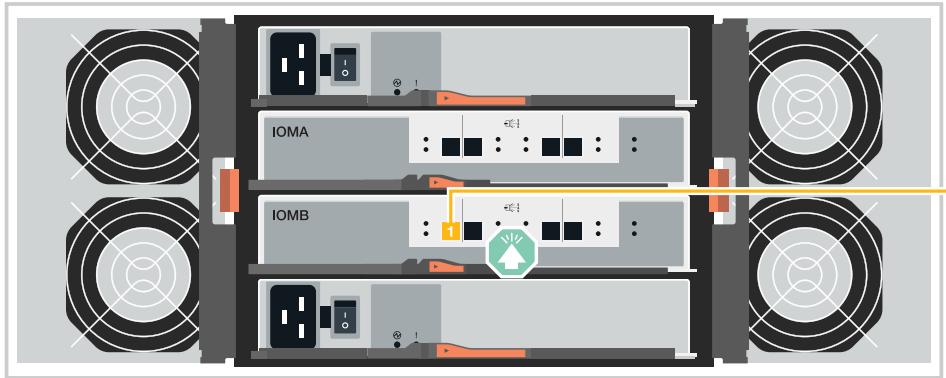
3. コントローラ B をシェルフにケーブル接続します。

- コントローラBのポート3aをシェルフ1のIOMBポート1にケーブル接続します。
- コントローラBのポート3Dをシェルフ2のIOMAポート3にケーブル接続します。

DS460C shelf 2



DS460C shelf 1



Controller A



Controller B

次の手順

ストレージシステム用のハードウェアのケーブル接続が完了したら、["ストレージ・システムの電源をオンにする"](#)

ストレージ・システムの電源をオンにします（FAS50）。

FAS50ストレージ・システムのネットワークおよびシェルフにコントローラをケーブル接続したら、シェルフとコントローラの電源をオンにします。

手順1：シェルフの電源をオンにしてシェルフIDを割り当てる

各シェルフは一意のシェルフIDで識別されます。このIDにより、ストレージシステムの設定内でシェルフが区別されます。

このタスクについて

- 有効なシェルフIDは01~99です。

コントローラに内蔵シェルフ（ストレージ）が統合されている場合は、固定シェルフID 00が割り当てられます。

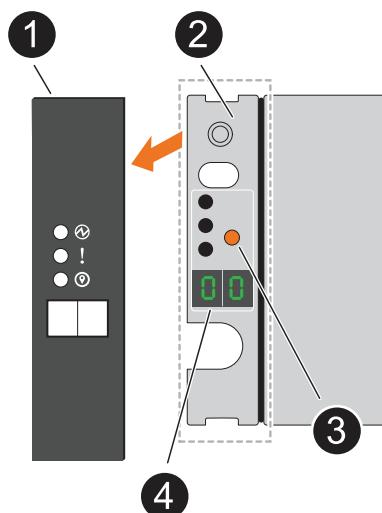
- シェルフIDを有効にするには、シェルフの電源を再投入する必要があります（SASシェルフの各電源装置の電源スイッチをオフにし、しばらく待ってから再度オンにします）。

手順

- シェルフの電源をオンにします。まず電源コードをシェルフに接続し、電源コード固定クリップで所定の位置に固定し、電源コードを別々の回路の電源に接続してから、各電源装置（シェルフの背面）の電源スイッチをオンにします。

シェルフの電源がオンになり、電源をオンにすると自動的にブートします。

- 左側のエンドキャップを取り外して、前面プレートのオレンジ色のシェルフIDボタンを確認します。



①	シェルフのエンドキャップ
②	シェルフ前面プレート
③	シェルフIDボタン
④	シェルフID番号

- シェルフIDの最初の番号を変更します。

- デジタルディスプレイの1桁目の数字が点滅するまでシェルフIDボタンを押し続け、点滅したら放します。

点滅するまでに最大15秒かかる場合があります。これにより、シェルフIDプログラミングモードがアクティブになります。



IDの点滅に15秒以上かかる場合は、シェルフIDボタンをもう一度押し続け、最後まで押します。

- b. シェルフIDボタンを押して放し、目的の0~9の数字になるまで番号を進めます。

各プレスおよびリリース時間は、1秒ほど短くすることができます。

1桁目の数字は点滅し続けます。

4. シェルフ ID の 2 番目の番号を変更します。

- a. デジタルディスプレイの 2 衝目の数字が点滅するまで、ボタンを押し続けます。

数字が点滅するまでに最大 3 秒かかる場合があります。

デジタルディスプレイの 1 衝目の数字の点滅が停止します。

- a. シェルフIDボタンを押して放し、目的の0~9の数字になるまで番号を進めます。

2 衝目の数字は点滅し続けます。

5. 目的の番号をロックし、2桁目の番号の点滅が止まるまでシェルフIDボタンを押し続けてプログラミングモードを終了します。

点滅が停止するまでに最大 3 秒かかる場合があります。

デジタルディスプレイの両方の数字が点滅し始め、約5秒後に黄色のLEDが点灯して、保留中のシェルフIDがまだ有効になっていないことを通知します。

6. シェルフIDを有効にするために、シェルフの電源を10秒以上再投入します。

- a. 各電源装置の電源スイッチをオフにします。

- b. 10 秒待ちます。

- c. 各電源装置の電源スイッチをオンにして、電源を再投入します。

電源装置の電源がオンになると、2色のLEDが緑色に点灯します。

7. 左側のエンドキャップを取り付けます。

手順2：コントローラの電源をオンにする

シェルフの電源をオンにして一意のIDを割り当てたら、ストレージコントローラの電源をオンにします。

手順

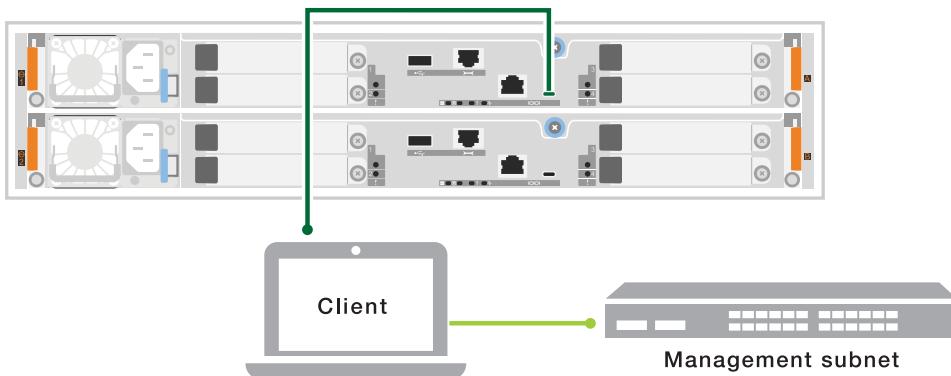
1. ラップトップをシリアルコンソールポートに接続します。これにより、コントローラの電源がオンになっているときのブートシーケンスを監視できます。

- a. ラップトップのシリアルコンソールポートを115、200ポート (N-8-1) に設定します。

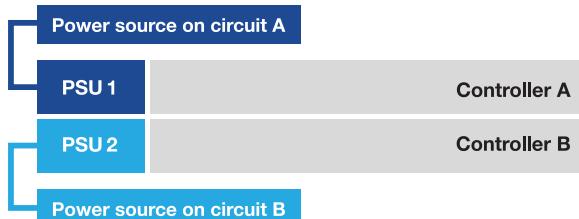


シリアルコンソールポートの設定手順については、ラップトップのオンラインヘルプを参照してください。

- b. ストレージシステムに付属のコンソールケーブルを使用して、コンソールケーブルの一端をラップトップに接続し、もう一端をコントローラAのシリアルコンソールポートに接続します。
- c. ラップトップを管理サブネット上のスイッチに接続します。



2. 管理サブネット上のTCP/IPアドレスを使用して、ラップトップに割り当てます。
3. 2本の電源コードをコントローラの電源装置に接続し、別々の回路の電源に接続します。



- システムがブートを開始します。初回のブートには最大で8分かかることがあります。
- LEDが点滅し、ファンが起動します。これは、コントローラの電源がオンになっていることを示します。
- ファンは最初に起動するときに非常にうるさい場合があります。起動時のファンの異音は正常。
- システムシャーシ前面のシェルフIDディスプレイが点灯しません。

4. 各電源装置の固定装置を使用して、電源コードを固定します。

次の手順

ストレージシステムの電源を入れたら、 ["クラスターを設定する"](#)。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。